

**木本議員** 皆様、おはようございます。5番木本です。若者の定住につながる子育て・教育支援策についてお伺いします。現在、本町では、高校生75名、中学生40名、小学生81名、来年には10名減るそうです。そして、12月1日時点の総人口は、3,301人です。牟岐町の定住人口を増やしていくためには、子育て世代にとって魅力のある支援が欠かせないと考えています。昨日11日の15時31分に我が家の前の若夫婦に3人目の男の赤ちゃんが産まれました。牟岐町人口が一人増えたというので、皆さんが喜んでいたのでですけど、質問1番、本町では、令和元年6月から高校卒業までの医療費が無料化され、多くのご家庭に大変喜ばれているところです。しかし、徳島県内では、入院時食事療養費の給付有りは那賀町、阿南市、勝浦町、上勝町、佐那河内村、神山町、つるぎ町と各町が減額・免除されるケースも有り、償還給付などがありますが、那賀町の子どもはぐむみ医療制度では、入院時の食事代（標準負担額）も助成の対象となります。一般的な健康保険では「入院時のお食事代」は「入院時食事療養費」として、一部自己負担（標準負担額）が発生しますが、那賀町の場合、この自己負担分も助成の対象に含まれます。完全ゼロ円です。牟岐町も、今後さらに充実させていくお考えがあればお聞かせください。2番、次に、もう一つの大きな負担である小中学校の給食費について、完全無償化に向けた町のご見解を伺います。給食費の負担がなくなることで、子育ての安心感が大きく高まり、「子育てしやすい町・牟岐」としての魅力向上にもつながると考えています。以上、2点について、町のご所見をお示しください。

**喜田議長** 枳富町長。

（枳富町長 登壇）

**枳富町長** 木本議員ご質問の、若者の定住につながる子育て・教育支援策の強化と、町の独自の予算導入について、一般質問通告書に基づき、お答えします。1の高校卒業までの医療費の完全無料化は、令和3年7月1日から無料になっています。2の小中学校の給食費の完全無償化につきましては、現在、国において具体的な制度設計が本格的に進められているところですので、国の動向を注視し、国の発表に対して柔軟に対応できるよう検討してまいります。以上です。

**喜田議長** 木本議員。

**木本議員** 町長、ありがとうございます。ご答弁。高校卒業までの医療費無償化は、子育て家庭からも非常に安心されている制度だと私自身も日々感じています。今回、あえて取り上げたのは、制度の継続性や周知の強化、そして、利用しやすい仕組みへの改善を改めて確認させていただきたかったためです。今後もこの制度がしっかりと町民の皆さまの支えとなるよう、引き続き安心できる運用をお願いしたいと思います。次に、また、町長のご答弁、ありがとうございます。給食費の無償化は、子育て世代への大きな支えになる施策だと思っています。町として、前向きに検討を進めていただけたことでしたので、ぜひ将来的な実現に向け、国や県の動向もいたしながら、取り組みを進めていただければと思います。本日のご答弁を伺い、牟岐町が子育てを大切にす町として進んでいこうとする姿勢を改めて感じることができました。子どもたちの笑顔は、町の未来そのものです。医療費の支援が続き、そして給食費の無償化という大きな目標にも町が前向きに歩もうとしていること。これは若い世代が牟岐で暮らしたいと思える力になると信じています。町民の皆さまとともに、牟岐の未来を育てていけるよう、私どもも引き続き努力してまいります。どうぞよろしくお願いいたし、これで私の一般通告を終わらせていただきます。ありがとうございます。